

令和3年6月12日（土）13日（日）開催

## 第60回岡山県高等学校総合体育大会 水泳競技の部

### 施設利用ガイドライン

作成者 岡山県高体連水泳専門部委員長 一安俊典

連絡先 086-465-2504

(岡山県立水島工業高等学校)

#### 1. 3つの密（密閉・密集・密接）の徹底的な回避対策について

参加者には大会2週間前から検温・体調チェックを求める。  
大会当日には大会参加者全員に「健康チェックシート」（別紙）の提出を求める。提出がない場合は、会場内に入れない。  
競技場への出入り口は1か所とする。「健康チェックシート」を受け取り競技場内に入った全ての者は、受付で配付した吊り下げ名札ケースにIDカードを入れ、常に携帯する。会場外に出る場合も携帯し、再入場の際に受付に提示すること。（再入場の際「IDカード」の提出がないときは、健康チェックシートの提出など入場時の手続きが必要となる）

#### (1) 感染者、濃厚接触者が出た場合の対応について

##### ①感染者への対応

競技会開催日の2週間前の時点、またはそれ以降にPCR検査もしくは抗原検査で陽性反応があった場合、当該選手は参加できない。

##### ②濃厚接触者への対応

保健所から濃厚接触者と認められた場合、14日間にわたり健康状態を観察する期間を経過し、症状が出ていない選手の出場を認める。

##### ③感染疑い者への対応

競技会開催2週間前の時点、もしくはそれ以降に感染疑い症状（発熱や咳症状がある、息苦しさや強い倦怠感があるなど）がある場合、原則、当該選手は参加できない。但し、次の1)・2)の両方の条件を満たしている場合、競技会への出場を認める。

1)感染疑い症状の発症後に少なくとも8日が経過している。（発症日を0日とする）

2)薬剤を服用していない状態で、解熱後および症状消失後に少なくとも3日が経過している。（解熱日・症状消失日を0日とする）

#### (2) 選手や控え選手、監督・役員に対する待機場所の指示と感染防止対策

選手や控え選手は決められた場所に待機する。また監督・役員も同様に待機場所を設ける。原則、マスクを常時着用する。

観客席は、密にならないよう間隔を空けて座るよう工夫する。

- (3) 応援者（保護者等）や一般者に対する感染防止対策  
無観客試合とし、会場への入場は出場選手、引率教員、高体連水泳専門部が定める人数以内の競技役員・関係者のみとする。保護者も観戦はできない。
- (4) 試合待機者の施設内での感染防止対策  
観客席を利用する場合は、間隔を開けるなど感染予防対策をする。選手は練習時、競技出場時以外は常にマスクを着用する。引率教員・競技役員も常時マスクまたはマウスシールド、フェイスシールド等を着用する。  
ホイッスル（指笛も含む）の使用を禁止する。声援を誘発する恐れがあるため、メガホン、電子ホイッスルの持ち込みを禁止する。（審判長の出発前の合図は電子ホイッスルを使用する。）声を出しての応援を禁止する。応援は手拍子、拍手などで行うか、応援グッズは工夫して、飛沫の飛ばないものであれば持ち込むことを許可する。
- (5) 会議室、放送室、更衣室など室内での感染防止対策  
会議室、放送室などは、限られた人数内で使用し、密を避けるようにする。更衣室は更衣のみに使用し、長時間滞在しないようにする。更衣室に入れる人数も制限する。荷物も更衣室に置かない。ウォーミングアップ（練習）時はプールサイドに、競技出場時は指定された場所に置く。  
荷物（脱いだ服、マスク）は透明ビニール袋（45L程度）を各自で準備、持参し、ひとまとめにして管理させる。
- (6) 会場（集合場所）までの移動手段での感染防止対策  
参加校には、できるだけ保護者の送迎をお願いする。公共交通機関での移動の場合は、必ずマスクを着け、無言で行動するように各校より指導をお願いする。

## 2. その他の感染防止対策

- (7) 施設入場時の検温について  
大会参加者全員に大会当日の体温が記載された「健康チェックシート」の提出を求める。提出がない場合は、会場内へ入れない。（出場種目は棄権となる）  
・流れとしては、このような想定となる。

※顧問は「健康チェックシート」と「体調管理表」を参加人数分印刷し配付する。  
→2日前からの健康チェック、検温結果等を記入させ、「保護者確認」を行う。  
→試合当日、引率教員は選手の「健康チェックシート」を集め**体温等のチェックを行う**  
参加者がそろったら引率教員が選手とともに入場し、「健康チェックシート」を受付に提出する。  
→受付で引率教員・選手は吊り下げ名札ケースを受け取る。選手はIDカードを入れて常に携帯しておく。（IDカードを持っていない選手・引率教員は、受付で所定のカードを受け取り、記入のうえ携帯する）

- (8) 移動時や待機時のマスクの着用について

選手は泳ぐとき以外は、常時、布マスク（不織布、化学繊維製等を含む）を着用する。練習時、競技出場時は、できるだけプールサイドまでマスクを着用する。泳ぐ前（シャワーの前）にはずし、荷物入れのビニール袋等に入れる。（マスクだけ放置しない）泳いだ後は、呼吸が整ってからマスクを着用する。マスクをはずしている間は、人との距離（できるだけ2 m以上）を取り、会話をしたり声を出したりすることは、絶対にしない。

引率教員・競技役員も常時マスクを着用する。ただし、部署の必要性や熱中症予防のため、フェイスシールド、マウスシールド（透明マスク）を着け、布マスクをはずすことは認める。

選手は練習時、競技出場時は、プールサイドまでマスクを着用し、泳ぐ前（シャワーの前）にはずし、荷物入れのビニール袋等に入れる。泳いだ後は、呼吸が整ってからマスクを着用するが、それまでは厳重に人との距離（できるだけ2 m以上）をとり、会話をしたり声を出すことはしない。引率教員・競技役員も常時マスクまたはマウスシールド、フェイスシールド等を着用する。

(9) うがい手洗いや会場の消毒体制について

うがい手洗いの徹底を参加者に促す。消毒用剤は高体連水泳部で準備し、各箇所に設置する。可能な限り、携帯用の消毒用剤を各自で準備して持ち込むことも依頼する。

(10) 熱中症予防の給水と水分補給方法について

館内で食事をすることは原則できない。スタンド部分も禁止する。昼食等は建物の外に出て、公園や駐車スペースで行う。ただし、ドリンク（水分補給）、捕食としてのゼリー飲料等は摂取可能とする。

ドリンクは個人専用とし、回し飲みはしないこと、飲みきれなかったドリンクを捨てないことを徹底する。

(11) 上記以外の感染対策について